

## 学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 令和元年度吉城高等学校学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和元年8月31日（土）15:30～16:50
- 3 開催場所 吉城高等学校 校長室
- 4 参加者
- |     |       |          |
|-----|-------|----------|
| 委員  | 沖畑 康子 | 飛騨市教育長   |
|     | 石原 典子 | 民生委員     |
|     | 坂本 頼彦 | 吉城高校育友会長 |
| 学校側 | 日江井孝浩 | 校長       |
|     | 大野 貴司 | 教頭       |
|     | 日野 利明 | 事務長      |
|     | 小原 誠  | 教務主任     |
|     | 下嶋 和長 | 生徒指導主事   |
|     | 小澤 耕  | 進路指導主事   |
|     | 鈴木 泰輔 | キャリア推進部長 |

### 5 会議の概要（協議事項）

#### （1）挨拶

#### （2）学校の取組等についての報告

##### ア 教頭

- ・働き方改革の取組
- ・学習環境の充実（エアコン・ICT化・教室棟改修・体育館回収等）
- ・学校設定科目 ESD「国際理解探究（台湾研修）」

##### イ 教務部

- ・部活動報告
- ・高校説明会
- ・オープンスクール
- ・一日入学

##### ウ 生徒指導部

- ・校則の見直し

##### エ 進路指導部

- ・3年生の進路

##### オ キャリア推進部

- ・YCKプログラムと参加生徒数
- ・学校設定科目 ESD「地域課題探究」

(3) 協議・意見交換（課題・目標・ビジョンの共有、アクションの共有）

※学校評価アンケート（生徒・保護者対象）の内容についても協議を行う

意見1 YCKについての分類がいろいろあるが、それぞれどういうものなのか教えて欲しい。

学校側 ピラミッドでいえば、根底にあるのが「各教科の授業」、その上に「総合的探究（学習）の時間」、次が課外活動プログラム（委員会・部活動を含む）、そして学校設定科目としての「地域課題探究（27名の受講し、コースを2つに分けて実施）」となっている。地域課題探究の地域イベントコースでは、7月飛騨信前発展会と高校生が考えたメニューを実施し、みんなの博覧会コースでは、10月20日（孫の日）に吉城高校を会場として、祖父母とお孫さんが楽しんでもらえるような企画を準備している。

意見2 課外活動は成績が評価されるのか。

学校側 成績の評価はしないが、必ず振り返りを実施し、取組に対する自己評価を行わせている。また、ESDパスポートをもっているため、ポイントによってユネスコ協会から活動認定書が授与される。

意見3 キャリア推進部のYCKの説明の中で、「与え過ぎ、一人一人に合わせて」と言われたが、その通りだと感じている。総合的な学習の時間がはじまった時には、その目的は素晴らしいと思ったが、学校に丸投げされた感があり、取組の困難さは否めない。現状では課題解決能力が小中学校で十分に身につけているとは言えない。それぞれの発達段階に応じた指導を積み重ねることで高校に引き継ぎ、卒業するまでにそうした考え方やスキルを身に付けて社会人になれるようにしたい。なかなか難しいことも承知しているが、飛騨市学園構想の中で、それぞれの発達段階に応じて、みんなで課題を共有しながら取り組んでいきたいと考えている。地域の方々との連携が上手くいくようになれば、そうした学び方を理解していただけると考えている。

意見4 地域課題解決型の学習は、小学校の方がやりやすいということはないか。早い段階で取り組むと飛騨市の取組も変わっていくのではないだろうか。

意見5 実施していないわけではないが、低学年ほど校外に出ることの安全性などを配慮しないといけなく、なかなか難しい面もある。

意見6 吉城高校の先生方がすごく努力してくれているのではないか。一方、多方面に広げすぎると、生徒と教員の負担が大きくなるので、一番大事なところは何かというところを絞って、一定の制限をかけて進めていってほしい。やればやっただけ良い成果が出るとも限らない。

学校側 今年度の企画ではそのようなことを感じたことがある。

「企業の魅力を見つけるライターになろう」というプログラムでは、希望者が1年生一人であった。担当者の方は「生徒が不安を持たないように」と事前指導を丁寧に行ってくれたが、大人の方が盛り上がってしまったため、生徒が尻込みしてしまった。誰の責任において実施するのかについては、活動が広がれば広がるほど、難しくなる。生徒が活動に参加して戻ってくるまで、丁寧に対応しなければいけないなどと思った。色々な学校から、ふるさと教育のモデルとして本校に問い合わせがあるが、本校でも課題は山積している。

意見7 企業側は教えるプロフェッショナルではない。企業と学校の側で想いも違い、その狭間で生徒が困ってしまうこともあるのではないか。

学校側 夏休みには、生徒が忙しすぎるくらいになっている。

意見8 持続可能なものにするために、慌てず少しずつ少しずつ取り組めばよい。

意見9 企業に対する教育ということが課題になってくる。企業側が子どもたちに教えることに熱を持ってもらえるように「教えるためにどういう勉強を企業がすればよいか」というところまで、企業が考えてくれるようになるとありがたい。

意見10 今後、勉強会、研修会が必要になる。企業と学校のコーディネートができるような方を社会教育主事として確保できないかも考えている。

学校側 飛驒City 人財会議などの組織が再編され、飛驒市が一括するようになると、いろいろな対策が進んでいくのではないか。本校でも今年度からキャリア教育プランナーが配属され、さらに2名のキャリアコーディネーターの方がいる。そうした方々により、学校と地域の連携をとっていければと思う。

意見12 アンケートで思ったのは、多くの項目でポイントが上がってきており、努力により改善されているのではないかと感じる。ただ、飛驒市の児童生徒の特徴かもしれないが、小中学校でもアンケートを取ると、Aの評価（一番良い評価）を書く生徒が少なく、自信がない面が伺える。一例として「2番手で良しとするのではなく、さらなる上を目指す」といったことも大切であり、その部分が改善されることも必要である。

学校側 学年ごとの集計では、1、3年生に比べ2年生は、Aの評価（一番良い評価）を記入した生徒が少ない。考えて取り組んでいきたい。

意見13 飛驒市では、高校のようにホワイトボード化はしていないが、プロジェクター設備を整え、ノートパソコンにより使用できるようにした。ICT教育を進めるに当たり、ぜひ、学び合いができればよいと考えている。

意見14 ホワイトボードを見て、教育環境が変わったのを実感した。新しい教育環境をフル活用していただきたい。

意見15 ICT環境が整って、先生方の感想はどうか。

学校側 画期的である。そのまま教科書を映せるので、授業のスピードが上がった。

学校側 授業が効率的になった。

意見16 アンケートで気になったのは12番（本校では体罰はない）の質問項目。体罰についてゼロ回答でなかったのは残念。受け取り側の問題もあるので難しいが。

学校側 手を上げる教員は当然いないが、自分が強く叱られたり、他の生徒が強く叱られていることに敏感な（傷つく）生徒もいる。教員には、本人に叱られる意味を理解させてほしいと伝えている。気を付けながら生徒と向き合っていきたい。

意見17 保護者の間では体罰の情報は入ってくるのか。

意見18 入ってきたことはない。

学校側 教員が何気なくいった一言が生徒に影響を与えることがあるので、そこは気を付けていきたい。

意見19 叱ることは悪いことではない。むしろ、本人が悪いということを理解しないまま進むことが一番問題となる。逆に家庭の方に投げてもらえればよいと思う（難しいかもしれないが）。

意見20 活力ある高校づくり推進協議会がはじまった時に「もっと吉城高校をPRした方がよいのではないか」という意見があった。しかし、現在は、ホームページも大変充実した。地域などへ配付している学校便り（吉高ニュース）と重複する部分もあるので、教員の負担を考え省略してもよいのではないか。地域の回覧が多すぎて、しっかりと読まれていないところもある。本当に必要なものだけ、出せばよいのではないか。

意見21 情報の取捨選択をするべきである。

意見22 中学生がどうやって学校を選ぶのか。決めかねている生徒にとっては、オープンスクールと一日入学の影響は大きい。その時に、中学生の心を引き寄せられる授業をすることは大きなポイントとなる。

## 6 会議のまとめ

委員の方の出席が6名中3名であったが、意見が多く出され活気ある会議となった。

コミュニティ・スクールとしてスタートした本校の課題や目標、ビジョンを共有し、意見交換を行う中で、これからの方向性が再確認され、中学生や地域からの支持が得られる魅力ある学校作りを進める上で、有意義な学校運営協議会となった。しかしながら、より多くの方々からの意見は必要不可欠であり、アクションの共有といった面からも、委員全員が出席できるような日程を設定しなければならないと考えている。